リーズⅠ〉　特集『スクール・カウンセリング――要請と理念』至文堂，154-166頁，1995.

今いじめられている君へ――日記やノートのすすめ　松原達哉編『今いじめられている君へ――カウンセラー50人からのアドバイス』教育開発研究所，44-45頁，1995.

十四の心で人と接する　松原達哉編『いじめっ子への処方箋――カウンセラー50人によるいじめ解決法』教育開発研究所，86-87頁，1996.

〔論　文〕

教師の生徒への密かな期待〈巻頭言〉『名古屋大学教育学部附属中・高等学校研究紀要』第39集，1994年度，1-2頁，1994.

研究開発指定学校の元年に当たって〈巻頭言〉『名古屋大学教育学部附属中・高等学校研究紀要』第40集，1995年度，1-3頁，1995.

5．その他

対人関係の心理学（B.心理学Ⅲ）若杉長英編『移植コーディネーターテキストブック』第1章，62-63頁（タイプ印刷）.

百聞は一見にしかず　『窓』（名古屋大学附属中・高等学校図書部報）第41号，1-2頁，1994.

辞典項目：依存性うつ，外傷，カウンセリング，面接法　岡本夏木・清水御代明・村井潤一監修『発達心理学辞典』ミネルヴァ書房，37，78，88および649頁，1995.

村上英治先生のご逝去を悼む　『心理臨床－名古屋大学教育学部心理教育相談室紀要』第11巻，3-4頁，1996.

以　上

（平成8年10月9日記）

研究経過報告（'95年11月～'96年10月）

吉　田　俊　和

1．「社会的促進」に関する研究

筆者が大学院を修了するころからテーマとした研究の成果を，昨年11月に「社会的促進過程に関する研究－他者の存在と個人のパフォーマンス－」の題目で学位論文として提出した。いろいろ不十分な点もあったが，とにかく一つの区切りをつけるためにまとめ上げたというのが偽らざる心境である。

2．「学校組織」に関する研究

一昨年より，シキシマ学術・文化振興財団の研究助成を受け，松原敏浩（愛知学院大学）らと始めた共同研究であるが，第2番目の研究成果が公刊された。

学校組織における管理職・主任層のリーダーシップ－学校組織の社会心理学的研究－　1996　経営行動科学，10，147-162.

なお，現在は第3番目の研究成果を「学校組織の社会心理学的研究（Ⅲ）」として，投稿準備中である。この一部は，本年度の日本グループ・ダイナミックス学会第44回大会で口頭発表された。

3．「大学生の対人適応」に関する縦断的研究

来年4月に，教育学部に入学した学生の友人関係の形成と変容過程をさまざまな個人変数との関係から検討する。また，孤独感や対人的なストレス経験とサポートネットワーク，精神的健康度との関係などを追跡的に調査する。現在，具体的な調査の実施計画について，共同研究者の廣岡秀一（三重大学）らと立案中である。

4．その他

研究論文

意見表明における自己呈示に関する研究　1996　名古屋大学教育学部紀要――教育心理学科――，43（印刷中）（栗林克匡と共同）

分担執筆

他者の存在と個人のパフォーマンス　1996　長田雅喜編「対人関係の社会心理学」　福村出版　Pp.17-26.

口頭発表

能力評価場面における自己呈示の性差に関する研究　1996　日本社会心理学会第37回大会発表論文集　Pp.222-223.（栗林克匡と共同）

意見表明における自己呈示に関する研究－自他の知識量の比較の効果－　1996　日本グループ・ダイナミックス学会第44回大会発表論文集　Pp.188-189.（栗林克匡と共同）

現代の大学生の友人関係の特徴に関する一考察　1996　日本グループ・ダイナミックス学会第44回大会発表論文集　Pp.208-209.（山中一英と共同）

この教室に赴任してから，一年が経過した。思い返せ